

## 「鹿児島県環境白書」刊行にあたって

本県は、南北600キロメートルに及ぶ広大な県土を有し、日本で初めて国立公園に指定された霧島、世界自然遺産に登録された屋久島、世界的にも貴重な動植物を有する奄美群島、毎年1万羽以上渡来する出水平野の特別天然記念物「ツル」など、他の地域にない優れた自然環境に恵まれています。このかけがえのない恵み豊かな自然環境を大切に保全し、活用しながら、次の世代に確実に継承することは、現代に生きる私たちの使命であると考えています。

本県の環境は、全般的におおむね良好に維持されておりますが、今、私たちの環境を取り巻く状況は、地球温暖化、廃棄物の減量化・リサイクル、希少野生動植物の保護など複雑・多岐にわたっております。

これらの問題の解決には、県民一人一人が身近なところから環境保全への取組を実践し、環境への負荷の少ない循環型社会の実現や人と自然が調和する地球にやさしい社会の実現を図っていくことが大切です。

環境」は、21世紀における人類の共通課題であり、今後様々な行政展開が集中的に求められると考えており、県としても、平成21年度から「環境部」を新たに設置して、今後地球温暖化対策推進のための条例制定や、世界自然遺産の島・屋久島における低炭素社会づくりのモデルとなる取組、産業廃棄物管理型最終処分場の整備に向けた取組などを進めることとしておりますので、県民の皆様の御理解、御協力をよろしくお願いします。

なお、この白書は、平成19年度における鹿児島県の環境の現状と施策の内容・成果を取りまとめたものであり、この白書が、県民の皆様の環境に対する認識や意識を高め、環境保全に向けた取組の参考になれば幸いです。

平成21年2月

鹿児島県知事 伊藤 祐一郎